

サドル付分水栓 手動穿孔機 施工手順書

本書はサドル付分水栓を取付け、手動穿孔機を使用し穿孔するための手順書です。施工する前に必ずお読みになり、内容をよく理解した上で作業を行って頂くようお願い申し上げます。

- 1) 配水管の種類と給水分岐径に適合したサドル付分水栓を選択する。
- 2) サドル取り付け部の管表面を、ウエスなどで十分に掃除する。

(写真1)

- 3) サドル付分水栓を配水管のサドル取り付け部に乗せ、サドルとバンドが配水管を抱き込むような形で組み合わせる。
- 4) バンド側からサドルに向けてボルトを通し、平座金とナットを取り付ける。(写真2)
- 5) トルクレンチを使用し、ナットを 片締めにならないように均等に 標準締めトルクまで締め付ける(表1)。

表1 標準締めトルク 単位:N・m

配水管の種類	標準締めトルク	
	ボルトの呼び	
	M16	M20
DIP (ダクタイル鋳鉄管)	<u>60</u>	<u>75</u>
VP (硬質塩化ビニル管)	<u>40</u>	注2) <u>50</u>
SP (鋼管)	<u>60</u>	<u>75</u>
注1) ACP (石綿セメント管)	60	75

注1) 管が劣化している場合あり。締め付けには十分注意して下さい。

注2) VP管 200 へ JW-SP サドル付分水栓 200×小口径を取り付ける場合。

- 6) 穿孔機取付口の閉栓キャップを外し、給水管取出口に取り付ける。(写真3) このとき、サドル付分水栓が完全に開いていることを確認する。
- 7) 分水栓の穿孔機取付口に呼び径に適合したアダプターを工具でしっかり締め付ける。(写真4)
- 8) 穿孔機のスピンドルに配水管の種類と給水分岐径に適合した錐を工具でしっかり締め付ける。(写真5)
- 9) スピンドルの送りを最上部まで戻し、アダプターに穿孔機を取り付け工具でしっかり締め付ける。(写真6)
- 10) 通水穿孔を行う場合、穿孔機の切粉排出バルブに切粉排出用ホースを取り付ける。(写真7)
 - * 切粉排出用ホースは、ホースバンドを用いて必ず固定する。
- 11) 穿孔機の切粉排出バルブを開く。
- 12) 送りハンドルを操作して錐を降下する。錐はゆっくり降下し、管表面に接したら送りを止める。* 送りハンドルは反時計回りで降下する。
- 13) 穿孔機のスピンドルにラチェットハンドルを取り付ける。(写真8)



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

14) 送りハンドルを少しずつ反時計回りに回し操作しながら、ラチェットハンドルで錐を時計回りに回転させ穿孔する。穿孔が終わると抵抗がなくなるが、すぐに送りを止めずその後も錐を回転させながら2～3回転送りをかけ、確実に穿孔する。(写真9)

* の作業を実施しなかった場合、この後行う防錆コアの装着に不具合を生じますので注意して下さい。(図1)

* VP管穿孔時、ラチェットハンドルの回転をほとんど行わずに送りハンドルを反時計回りに回転させて錐を送る“押し切り”状態となると、引き上げ時に錐片が配水管内に落下する恐れがあります。ラチェットハンドルを時計回りに回転させながら穿孔してください(目安:送りハンドル45°を1回に対しラチェットハンドル45°を2回程度)。

15) ラチェットハンドルを外し、送りハンドルを時計回りに回して最上部まで錐を引き上げる。(写真10)

16) 切粉排出バルブの開閉を繰り返し、排水流に脈動をあたえ切粉を十分に排出する。(写真11)

* 空管で穿孔した場合は、手順16)のかわりにマグネットクリーナー等で穿孔部・分水栓内部の切粉を確実に除去して下さい。

17) サドル付分水栓を閉じる。(写真12)

18) 切粉排出用ホースを外し、穿孔機をアダプターから取り外す。(写真13)

19) 穿孔機から錐を取り外す。

20) 分水栓からアダプターを取り外す。

21) 給水管取出口の閉栓キャップを外し、穿孔機取付口に工具でしっかり締め付ける。(写真14)

22) 穿孔機・錐・アダプターおよび使用した工具の汚れ・泥・砂利・水分等を十分に拭き取り専用のケースで保管する。

* VP管用の錐を使用した場合、必ず内部の錐片を取り除いてから保管すること。

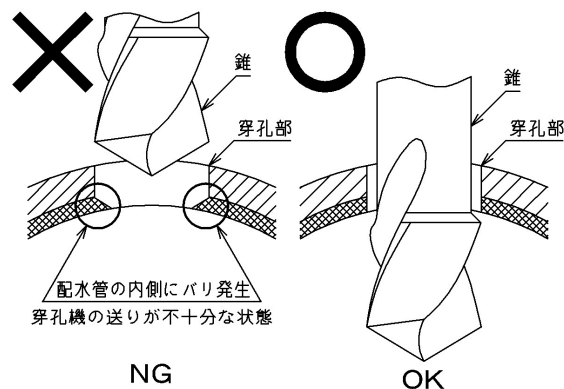


図1



写真9



写真10



写真11



写真12



写真13



写真14

○お問合せ・ご用命は、下記へ

 **前澤給装工業株式会社**

本社 〒152-8510 東京都目黒区鷹番2丁目14番4号
<https://www.qso.co.jp/>

(03)3716-1511(代表)

※この施工手順書は予告なく改訂・変更することがあります。

No.W1006 2022.7 (6版)